

人間福祉学研究科

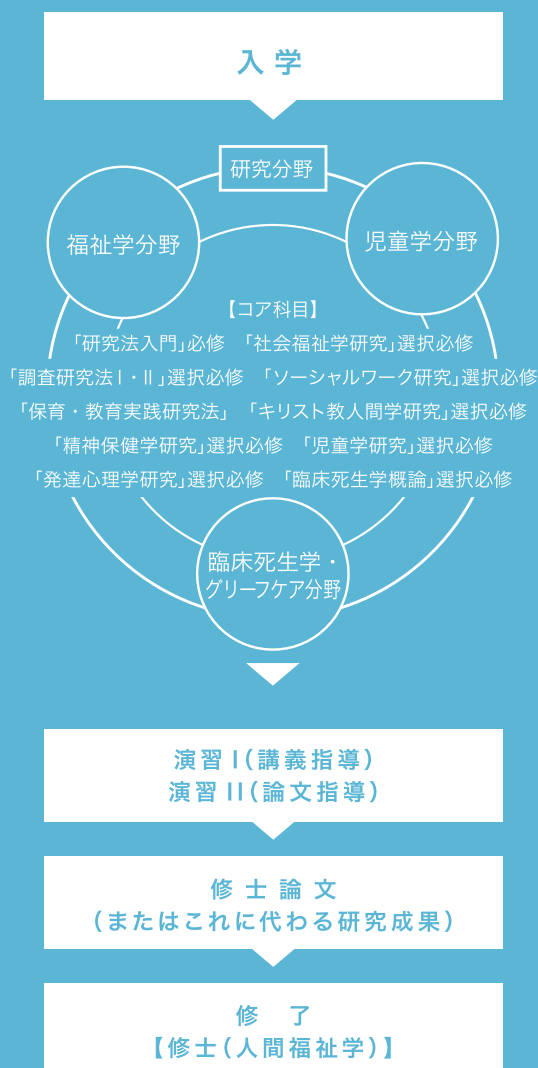
GRADUATE SCHOOL OF HUMAN WELFARE STUDIES



入学から修士号取得までの道

【標準 2 年修業 (30 単位以上履修)】

昼夜間・土曜開講





現場を知る人と
本質的な議論ができる。
しかも温かい場所です。

心理学よりさらに深い領域の学問「スピリチュアルケア」

岩田 実は、入学当初は老人福祉を研究テーマに考えていたんですよ。勤務先が特別養護老人ホームなので、仕事に直結したことを研究したいと思っていました。でも、履修登録するときに窪寺先生の「スピリチュアルケア」という授業名を見て、これだ!と思ったんです。それで、急遽、研究テーマをスピリチュアルケアに変えました。

窪寺 入学当初は岩田さんもいろいろ大変な時期でしたね。

岩田 ええ。妻が終末期のがんで、あとわずかの命という時期に入学しましたから。そういう状況では「スピリチュアルケア」とか「死生学」といった授業を取ることにしか、考えられませんでした。

窪寺 入学後6月に奥様が亡くなられて気持ちを整理しながら勉強を続けるのは大変だったと思います。でも、そこは乗り切って、仕事も勉強も続けて。よく頑張りましたね。

岩田 先生にも精神的にサポートしていただいて、本当に感謝しています。

窪寺 私だけでなく、クラスみんなが支えたと思いますよ。10人ほどのクラスですが社会経験のある人が多く、病院や学校などヒューマン・サービスの現場で働きながら学んでいる人も多いですからね。痛みを持っている人の痛みを理解できたんでしょう。岩田さんが悩んでいるときも、それを理解できる人がまわりについて、その人を包むような空気がクラスにあったんだと思います。

岩田 少人数制はこの学校のひとつの特色ですが、温かさとか配慮とか、

そういうクラスの雰囲気も、聖学院が持っている特色だと思いますね。自分をすべて出せる状態で、話しをしたり、聞いてもらったり。そういうことが自分にとっては大きかったと思います。

窪寺 クラスメートには、看護師の方で2時間くらいかけて通学して来る人もいましたね。看護師という仕事は相当忙しいはずですが、それでも2時間かけてこの学校に来るとするのは、なにか癒されるものがあるのかもしれませんが。知的欲求を満たすためだけでは、続けるのはなかなかしんどいと思いますよ。

岩田 研究課題と教育環境がひとつになっていると感じました。クラスメートには看護師のほかにも、牧師さんやカウンセラー、病院のボランティア、スピリチュアルケアワーカーなど、実際にスピリチュアルケアが求められている場で働いている人が多いので、自分の研究テーマにぴったりと合う話を聞くことができました。それぞれの現場でいろんなことを感じながら仕事をしている人たちが、ひとつの目的で集まっている中で交わされる議論は本質的で刺激的でした。

窪寺 スピリチュアルケアはまだ新しい学問ですし、研究できる大学はごくごくわずかです。でもニーズはいろんな分野である。それだけに、やろうと思えばいろんなことができる。そこが、面白いところだと思います。

Professor's Profile



窪寺 俊之 教授

担当科目：スピリチュアルケア研究演習
スピリチュアルケア特論Ⅰ・Ⅱ
日本文化学特殊研究

研究内容

スピリチュアルケアの本質の解明が研究テーマです。スピリチュアリティは宗教、心理学と重なり合う点があり、この3者の相関関係を明らかにすることは大切です。スピリチュアリティには人間を超えた神との関係性があり、宗教と非常に接近しています。その接近した部分、あるいは重なり合う部分の内容を明らかにしたいと考えています。

スピリチュアリティも宗教も「自己」のあり方を問題にしており、「真の自己とは何か」という問いを持っています。自己回復は心理学、宗教も追い求めているものですが、現代人は、スピリチュアルケアな癒しに解答を求めています。わたしの研究テーマは「自己回復」「癒し」などです。

実社会への貢献

スピリチュアルケアの研究は医療、看護、介護、教育などヒューマン・サービスの領域で広く求められています。「人間が人間となる」ための基本にスピリチュアルケアがあり、個人のスピリチュアリティの回復、エンパワーメントが各方面から期待されています。

特に終末期がん患者へのスピリチュアルケアの重要性は、50年ほど前からいわれています。日本でもホスピス・緩和ケアの領域で患者と家族のスピリチュアルケアに携わり、死後のいのちや人生の悔いなど、終末期がん患者を悩ます問題に貢献しています。

今後はヒューマン・サービスの領域に限らず、一般企業の中でも、スピリチュアルケアの必要性が出てくると考えられます。

ニーズは高いが
研究者はまだ少ない。
可能性の大きな分野だ
と
思いますね。



岩田 この学校には窪寺先生をはじめ、死生学の平山正実先生、カウンセリングの藤掛明先生など、第一人者といえる先生方がそろっています。トップクラスの先生から直接指導を受けられるのですから、ほんとうに贅沢な教育環境だと思います。良き先生、良き友人と、自分をさらけ出してとことんまで語りつくすことができたのは、貴重な経験でした。

窪寺 岩田さんが研究テーマに選ばれた「終末期がん患者の在宅におけるスピリチュアルケア」というのも、非常に先進的なテーマでしたね。

岩田 先行研究はほぼない状態ですから、手探りで研究を進めていった感じですね。僕の妻もそうでしたが、死に至るまでの生を在宅で過ごすことは、多くの終末期がん患者の生きる希望なんです。でも現実としてがん患者には身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、霊的苦痛という全人的苦痛が伴います。そういう状況の中で、家族はあれもしなくちゃ、これもしなくちゃと動き回ってしまいます。でも、スピリチュアルケアの視点に立ってみると、患者が望んでいるのは、いろいろされることよりも、ただ側にいて寄り添ってくれることなんです。今回、修士論文を書く上で、終末期ガンの配偶者と死別体験をした人たちと面談をして、改めてその思いを強くしました。家で普段の生活を家族とともに過ごしながら、患者が残された時間を主体的に生きられるよう、患者とその家族を支えるためにスピリチュアルケアの考え方がひとつの参考になれば、と考えています。

窪寺 その人の生き方が本当にそれで満足できるか。その人らしく生きているか。将来や死後に不安はないか。苦しみを受け止められているか。それがスピリチュアルケアの本質です。宗教学や心理学との関連は深いですが、もっと広く、深い枠組みで捉えるべきものだと思いますね。

岩田 終末期がん患者に対するスピリチュアルケアに関する研究は、私のライフワークとして続けていこうと思っています。それとは別に、今、私は特別養護老人ホームで働いているので、お年寄りの生活を支えていく中に、スピリチュアルケアの視点を取り入れていきたいと思っています。

窪寺 今、日本にホスピスは200くらいあるといわれていますが、スピリチュアルケアができているところは、1割にも満たないでしょう。スピリチュアルケアという言葉自体まだ知られていませんし、本当にこれからの分野です。でも、ニーズの高さはひしひしと感じています。今後は終末期医療の分野だけでなく、心の病についてもスピリチュアルケアが応用されていくでしょう。自らの手で新しい世界を切り開いていける、可能性の大きい研究分野だといえますね。

Student's Profile



岩田 光行さん
明治大学 経営学部経営学科卒業
聖学院大学大学院 人間福祉学研究科修了
現在、特別養護老人ホーム勤務

研究内容

現在、日本人の3人に1人が、がんで死亡しているといわれています。がんに罹患した人は人生最大の危機を迎える中で、住み慣れた場所で最後を迎えたいと願う人は多く、死に至るまでの生を在宅で過ごすことは、終末期がん患者の希望であり、生きる望みでもあります。私の研究テーマは「終末期がん患者の在宅におけるスピリチュアルケアの可能性」です。がん患者の全人的苦痛の中で、患者が家族とともに普段の生活を過ごし、残された期間を主体的に生きるためには、どういったサポートが必要なのか。配偶者とがんで死別した人たちとの面談を通して、がん患者を支え、寄り添い、生きる希望を与えるサポートを、スピリチュアルケアの観点から考えています。

実社会への貢献

がん患者の持つ背景は患者によって様々ですが、条件がそろえば看取りの場所が病院になるうとも、残された時間を住み慣れた家で家族とともに過ごすことは可能です。家族がスピリチュアルケアという視点に立って、在宅で患者を支え、寄り添い、生きる希望を与えられるよう、自分の研究が参考になればと願っています。また、老人福祉の分野でもスピリチュアルケアの考え方を導入していきたいと思っています。現在、特別養護老人ホームで働いているので、お年寄りの介護にスピリチュアルケアの考え方を取り入れ、ケアワーカーがスピリチュアルケアの視点に立ってお年寄りをケアできるよう、研修制度を導入するなど働きかけていきたいと考えています。



医療・福祉・教育・心の ホーリスティックなケア。

幼い命の犠牲が増える中で庇護すべき親の心に何が起きているのか？
絶望の中にある人をどのようにケアすべきなのか？相互扶助の仕組み
が弱まっている昨今、私たちはどうしたら助け合う仕組みを再構築で
きるのか？

人間福祉学研究科は古今内外の研究成果を踏まえつつ、今後の展望
と課題を熱く語り合う研究科にしたいと願っています。

人間福祉学研究科長
郡司 篤晃 / Atsuaki Gunji

東京大学医学部卒、同大学院卒。医学博士。
東京女子医科大学日本心臓血圧研究所研究部を経て1975年に厚生省入省、その後医務局
総務課、環境庁、鹿児島県衛生部長、厚生省生物製剤課長、健康増進栄養課長を歴任。
1985年より東京大学医学部保健管理学教授、1998年より聖学院大学教授、現在に至る。
[著書]「医療システム研究ノート」(丸善プラネット)、「パス法：その原理と導入・評価」(編
著、へるす出版)「医療費の地域差の研究」(編著、東洋経済新報社)「医療と福祉におけ
る市場の役割と限界」(編著、聖学院大学出版会) Julian Le Grand「公共政策と人間：社
会保障の準市場改革」(監訳、同)など。

分野ガイド

プロテスタント・キリスト教精神に基づいた本学の伝統と理念を核としながら、福祉の諸問題に対応する教育研究を行います。従来の社会福祉研究の知識に加え、カウンセリングの視点や包括的なケアの知識をもち、人間のさまざまな場面でのニーズに応えることができる質の高い人間福祉を探究します。

福祉学分野

社会的な支援を必要とする人々が直面する諸問題と、福祉社会の実現をめざす営みについて研究します。
特に、高齢者や障害者などの生活と、支援の理念、制度・政策、援助技術の課題を取り上げ、考究します。

児童学分野

「子供が変わった、わからなくなってきた」といわれる今日の社会にあって、子どもの発達と環境、家庭、子育て支援について研究します。
特に、いじめや虐待、ひきこもり、自殺などの具体的な問題を取りあげ、その背景と解決策を考えます。

臨床死生学・グリーフケア分野

心の疲れを感じ、痛みを負い、空虚感にとらわれ、あるいは生と死の意味に向き合う現代人の心と霊性について、臨床的・実践的な研究を行います。
問題の根幹と背景、必要とされる支援の方法について考究します。

【修士課程】

科目名	単位	開講期	担当者
コア科目群(必修1科目を含めて2科目以上選択必修)			
(必修)研究法入門	2	春	古谷野
キリスト教人間学研究	2	秋	高橋
調査研究法Ⅰ(量的研究)	4	秋	古谷野
調査研究法Ⅱ(質的研究)	4	春	山崎
保育・教育実践研究法	4	秋	入江
社会福祉学研究	4	春	牛津
ソーシャルワーク研究	4	秋	助川
児童学研究	4	秋	田澤
発達心理学研究	4	秋	池
精神保健学研究	2	春	平山
臨床死生学概論	2	春	平山

福祉学分野科目群(講義科目1・2年次選択)			
医療・福祉政策特論Ⅰ	4	春	郡司
医療・福祉政策特論Ⅱ	4	秋	郡司
高齢者保健福祉特論	4	春	古谷野
精神保健福祉特論	4	春	相川
福祉工学特論	4	春	野口
臨床心理学特論	4	春	長谷川
環境保健学特論	4	春	中村

児童学分野科目群(講義科目1・2年次選択)			
児童・青年期心理病理特論	4	秋	山田・石川
異文化間教育特論	4	秋	佐藤
児童文化特論	4	秋	小池・寺崎
児童福祉特論	4	春	中谷
児童教育学特論	4	春	永井
児童表現法指導特論	4	秋	村山・松本 他

臨床死生学・グリーフケア分野科目群(講義科目1・2年次選択)			
臨床死生学特論Ⅰ	2	秋	平山
グリーフケア特論	2	秋	平山
スピリチュアルケア特論Ⅰ	4	春	窪寺
スピリチュアルケア特論Ⅱ	4	秋	窪寺
キリスト教とカウンセリングⅠ	4	春	藤掛
キリスト教カウンセリング事例研究	4	秋	藤掛

履修の方法

- ❶コア科目群、研究分野3科目群および演習Ⅰ-Ⅱ(論文指導)科目から 30単位以上を履修。
- ❷履修すべき単位のうち、コア科目群については必修1科目を含めて 2科目以上選択必修。
- ❸履修すべき単位のうち、研究分野3科目群のうちいずれかを主とし、その主科目群を中心にそれぞれ選択履修。

修了要件

本研究科に標準で2年以上在学し、所定の単位(30単位)を修得すること。さらに、在学中に修士論文(または修士論文に代わる研究成果)を提出、その審査に合格する必要があります。修了した人は「修士(人間福祉学)」の学位を取得できます。

科目名	単位	開講期	担当者
演習科目群(演習Ⅰ・Ⅱとも1演習を選択必修)			
社会福祉学研究演習Ⅰ	2	秋	牛津
医療・福祉政策論研究演習Ⅰ	2	秋	郡司
精神保健福祉研究演習Ⅰ	2	秋	助川
ソーシャルワーク研究演習Ⅰ	2	秋	助川
高齢者保健福祉研究演習Ⅰ	2	秋	古谷野
環境保健学研究演習Ⅰ	2	秋	中村
児童学研究演習Ⅰ	2	秋	田澤
発達心理学研究演習Ⅰ	2	秋	池
児童福祉研究演習Ⅰ	2	秋	中谷
児童教育学研究演習Ⅰ	2	秋	永井
臨床死生学・グリーフケア研究演習Ⅰ	2	秋	平山
スピリチュアルケア研究演習Ⅰ	2	秋	窪寺
キリスト教カウンセリング研究演習Ⅰ	2	秋	藤掛

社会福祉学研究演習Ⅱ	4	通年	牛津
医療・福祉政策論研究演習Ⅱ	4	通年	郡司
精神保健福祉研究演習Ⅱ	4	通年	助川
ソーシャルワーク研究演習Ⅱ	4	通年	助川
高齢者保健福祉研究演習Ⅱ	4	通年	古谷野
環境保健学研究演習Ⅱ	4	通年	中村
児童学研究演習Ⅱ	4	通年	田澤
発達心理学研究演習Ⅱ	4	通年	池
児童福祉研究演習Ⅱ	4	通年	中谷
児童教育学研究演習Ⅱ	4	通年	永井
臨床死生学・グリーフケア研究演習Ⅱ	4	通年	平山
スピリチュアルケア研究演習Ⅱ	4	通年	窪寺
キリスト教カウンセリング研究演習Ⅱ	4	通年	藤掛

関連科目群			
他研究科・学部科目	-	-	許可を受けた他研究科・学部の科目

授業の実施方法

- 月曜日 12時50分～21時までの4時限制
- 火～金曜日 13時30分～21時までの4時限制
- 土曜日 9時～16時までの4時限制
- 勤務の都合上、同一曜日・時間帯に受講することが困難な社会人の実情と、集中的な授業で学習効果を高めるためにセメスター制を導入しています。

論文について

- ❶修士論文作成に関わる研究指導を行う科目は「演習」です。
- ❷演習科目の履修には、関連する講義科目の履修が必要となります。
- ❸演習Ⅰは1年次秋学期で、演習Ⅱは2年次で履修します。

時 間 割（2011 年度）

【修士課程】

	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限
	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40	18:00～19:30	19:30～21:00
月	児童教育学特論（永井）			臨床心理学特論（長谷川）	
				ソーシャルワーク研究（助川）	
	異文化間教育特論（佐藤）			児童・青年期心理病理特論（山田/石川）	
	13:30～15:00	15:00～16:30	16:30～18:00	18:00～19:30	19:30～21:00
火				キリスト教とカウンセリングⅠ（藤掛）	
				医療・福祉政策特論Ⅰ（郡司）	
				福祉工学特論（野口）	
				社会福祉学研究（牛津）	
	児童学研究（田澤）			キリスト教カウンセリング事例研究（藤掛）	
			医療・福祉政策特論Ⅱ（郡司）		
水		キリスト教人間学研究（高橋）		高齢者保健福祉特論（古谷野）	
				調査研究法Ⅱ質的研究（山崎）	
				児童教育学特論（中谷）	
				調査研究法Ⅰ量的研究（古谷野）	
木				精神保健福祉特論（相川）	
			児童文化特論（小池/寺崎）		
金			環境保健学特論（中村）		
			保育・教育実践研究法（入江）		

	1時限	2時限	休憩	3時限	4時限
	9:00～10:30	10:30～12:00	50分間	12:50～14:20	14:30～16:00
土	スピリチュアルケア特論Ⅰ（窪寺）			精神保健学研究（平山）	臨床死生学概論（平山）
	研究法入門（古谷野） [5/7・21・28, 6/4・18, 7/9]				
	スピリチュアルケア特論Ⅱ（窪寺）			グリーフケア特論（平山）	臨床死生学特論Ⅰ（平山）
	発達心理学研究（池）			児童表現法指導特論（村山・松本他）	

■：春学期 □：秋学期

下線科目は、必修科目

研究演習（Ⅰを含む）は、教員と学生が開講日時を調整する。

コア科目群

研究法入門	2 単位
古谷野 亘	
情報を集め分析するための枠組みづくりから、文献の検索と収集、調査の計画と実施、論文の書き方までを解説して、オリジナルなデータによって修士論文を作成しようとする学生に必要な基礎知識を提供する。	
キリスト教人間学研究	2 単位
高橋 義文	
キリスト教人間観の基本を確認し、その歴史的展開を概観する。その際に、特に、20 世紀中葉に活躍した弁証法神学者たちの人間観をめぐる議論をとりあげ、キリスト教人間学の特質とその現代的意義について考察する。	
調査研究法Ⅰ(量的研究)	4 単位
古谷野 亘	
前半では、社会調査の技法を解説し、あわせて社会科学研究方法としての調査の意義と限界について論じる。後半では、尺度開発の手順を説明し、履修者の関心に応じて調査票作成、データ分析、もしくは尺度開発の演習を行う。	
調査研究法Ⅱ(質的研究)	4 単位
山崎 浩司	
質的研究法は、人びとの主観的な意味づけや、当人でさえ意識的でない社会編成を明らかにするのに優れた方法である。受講生は、講義、グループワーク、課題を通して、質的研究の実践的な知識とスキルの獲得を目指す。	
社会福祉学研究	4 単位
牛津 信忠	
社会福祉の理論的諸問題を網羅的に究明するが、特に人間学的な福祉哲学から説き起こし、その理念に照合しながら海外や日本のこれまでの状況を検証する。さらに真に人間が可能性を発揮し、自らの生きる地域社会で共に生き合っていく条件を深く探っていく。	
ソーシャルワーク研究	4 単位
助川 征雄	
人間福祉を確かに実践し、リードできる専門職(研究者)養成を目指す。具体的には、「ストレングスマデル理論」を中心に、院生による実践研究交流を重視し、検証していく。	
児童学研究	4 単位
田澤 薫	
児童学の視座から子どもを研究する際の基本的な観点について学んだうえで、子どもの育ちを援助する保育・教育や児童福祉の実践記録を分析し、子どもの姿や実践のあり様から子どもを研究する方法を身につける。	
発達心理学研究	4 単位
池 弘子	
子どもの発達や、子育て支援に関する研究方法について考え、検討するとともに、子どもの発達にかかわる問題や子育て家庭に対する発達心理学的支援のために必要な知識を学習する。	
精神保健学研究	2 単位
平山 正実	
精神保健学研究では、福祉の現場で働く人々が、精神保健をどのように使いこなすかという点にフォーカスを絞り、授業を進めていきたい。とくに、本講義では、精神保健の中における福祉の人間化はどのようにしたら達成できるかについて学んでいきたい。	
臨床死生学概論	2 単位
平山 正実	
臨床死生学概論では、福祉、保健、医療、教育、教会等の現場で働く人々が生と死とどう向かい合い、生と死の狭間にあって、苦しんでいる人をどう援助すべきかといった点に焦点を絞り、講義を行うと共に学び合う機会を提供する。	

福祉学分野科目群

医療・福祉政策特論Ⅰ	4 単位
郡司 篤晃	
医療と福祉はますます連携が重要となります。その推進策について、医療と福祉を比較しながら、歴史的、また世界的な視野で考えます。特に、経済的な側面を重視します。	
医療・福祉政策特論Ⅱ	4 単位
郡司 篤晃	
医療・福祉政策は公共政策の中でも最も中心的なものです。なぜならば、対象も、またケアの提供者も人間ですから、深い人間理解に基づいて考える必要があるからです。本講義では「準市場」という新しい考え方を中心に学びます。	
高齢者保健福祉特論	4 単位
古谷野 亘	
高齢者保健福祉の歴史の変遷を、そのときどきの社会的諸条件と関連づけて取り上げ、現状と変化の方向を明らかにし、その上で現状の課題とその解決に向けての方策を考査する。	
精神保健福祉特論	4 単位
相川 章子	
精神保健および精神障害者を取り巻く状況は近年めまぐるしく変化をしている。近年の動向もふくめて、精神保健福祉について歴史的・全体的に捉え、日本及び欧米諸国における動向をふまえつつ、その延長線上にある現在の精神保健福祉におけるソーシャルワークの実践およびその課題について学び、検討する。当事者自身の力、またサービス消費者の力を生かす新たな動きについて、ピアサポートやプロシューマー研究の発展と展開を示しつつ、精神保健福祉のパラダイム転換の萌芽の可能性について議論を中心に展開する。	
福祉工学特論	4 単位
野口 祐子	
障害者、高齢者などが直面する生活上の様々な困難を環境の視点でとらえ、生活の可能性を広げ、くらしを豊かにするための環境整備について、工学的な方策や解決方法を学ぶ。	
臨床心理学特論	4 単位
長谷川恵美子	
心理臨床の基礎となるような理論概念を、医療・保健領域、教育領域、福祉領域などの臨床場面をとりあげ、その治療とアセスメント、さらに連携の側面から整理し、心理療法の理論と実際の心理臨床技法に関する理解を深める。	
環境保健学特論	4 単位
中村 磐男	
室内環境衛生、上下水道、感染症予防、環境の物理的・化学的条件、環境汚染・公害、地球環境、生活習慣病予防など、受講者の要望も考慮して重点的に講義を進めたい。	
児童学分野科目群	
児童・青年期心理病理特論	4 単位
山田 麻有美／石川 由美子	
Keith Cheng & Kathleen Myers 編著 (2005)『Child and Adolescent Psychiatry THE ESSENTIALS』の講読を通して、児童期から青年期までに人間が直面する可能性のある問題を、心理学的および病理学的な学問の蓄積を媒介に読み解いていく。	
異文化間教育特論	4 単位
佐藤 千瀬	
本講義では、異文化間教育・異文化適応・異文化間コミュニケーション等の理論と実践について検討する。関連する文献講読や映像の視聴、発表等を通して、保育・教育に関する自身の枠組を広げることを目標とする。	
児童文化特論	4 単位
小池 茂子／寺崎 恵子	
前半は、小・中・高校生の生命あるいは死生観について取り上げる。小・中・高校生の生命や死に関する意識調査や教育実践等の先行研究に当たる。後半は、遊びの観点から児童文化の研究を行う。遊びに関する研究史の把握を通じて、子どもの遊びの世界の本質を把握することを目指す。	

児童福祉特論	4 単位
中谷 茂一	
児童福祉分野のうち、子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、解説や議論を行う。また、実際の福祉現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果も紹介する。その中で受講者がそれぞれの立場での実践に活用できれば幸いである。	

児童教育学特論	4 単位
永井 理恵子	
この特論では、児童教育について、歴史的観点から再校することを目的とする。履修者が必ずしも教育学を専門としない場合が多いことから、児童教育の基礎を歴史的・哲学的に習得し、その上で各自の研究課題に接近する。	

児童表現法指導特論	4 単位
村山 順吉 / 松本 祐子	
子どもとのかかわりを活きたものとするために、そこに現れ出る様々な事柄を深く読み解き、表現におけるやりとりの質を高め、かかわりそのものを豊かに導けるようになることを念頭に置きながら、授業を進めたい。	

臨床死生学・グリーフケア分野科目群

臨床死生学特論Ⅰ	2 単位
平山 正実	
福祉、介護、教育、教会、医療の現場で働く者、あるいは、このような現場で働くことを目指す者が、現実には生と死の危機に直面し、苦しんでいる者に接し、体験学習を積み重ねる中で、そのような人々を理解し、援助することができるようになるための教授科目である。	

グリーフケア特論	2 単位
平山 正実	
グリーフケア特論では、病的悲嘆に陥り、援助を必要としている人々に対して、どう援助するかという課題について講義する。この授業では、悲嘆援助にかかわる具体的かつ臨床的テーマに絞り込み、実証的な知識や技術、態度について学習する。	

スピリチュアルケア特論Ⅰ	4 単位
窪寺 俊之	
スピリチュアルケアの入門からはじめて、「スピリチュアリティ」「スピリット」「スピリチュアル」などの基本的概念の理解を明確にし、臨床現場を視野に入れてスピリチュアルケアを考える。	

スピリチュアルケア特論Ⅱ	4 単位
窪寺 俊之	
特論Ⅰを踏まえて、スピリチュアルケアの新たな可能性を探る。音楽、絵画、自然などのもつスピリチュアルな力について考え、ケアの為のひとつの道具とする道を探る。	

キリスト教とカウンセリングⅠ	4 単位
藤掛 明	
カウンセリングの一般的な原理、原則を学ぶが、特にカウンセリング独自の「臨床の知」に焦点をあてる。また、「自己愛」「依存・嗜癖」などの診断と治療の実際を取り上げ、これらの心理的問題と宗教的問題の双方を解説する。	

キリスト教カウンセリング事例研究	4 単位
藤掛 明	
実際の事例検討を通して、現代人が、また宗教関係者らが、どのような問題を抱え、またそこから開放されていくことが可能なのかを具体的に学んでいく。なお、前半では事例研究の基礎となる心理テスト等の諸技法の実習を行う。	

演習科目群

社会福祉学研究演習Ⅰ	2 単位
牛津 信忠	
社会福祉学の領域、特に理論と歴史、福祉文化、さらに現今の主要課題となっている地域福祉の接近に関するテーマで修士論文の作成を目指す学生に対し、前提となる福祉思想まで掘り下げて研究指導を行う。	

医療・福祉政策論研究演習Ⅰ	2 単位
郡司 篤晃	
医療と福祉の基礎概念と経済学的考え方について学びます。	

精神保健福祉研究演習Ⅰ	2 単位
助川 征雄	
精神保健福祉に関するテーマにより修士論文作成を目指す院生に対し、研究指導を行う。特に「事例研究」「先進的な実践理論」などに関心のある院生指導に重点をおく。	

ソーシャルワーク研究演習Ⅰ	2 単位
助川 征雄	
ソーシャルワーク（社会福祉）に関するテーマにより修士論文作成を目指す院生に対し、研究指導を行う。特に「事例研究」「先進的な実践理論」「国際ソーシャルワーク」などに関心のある院生指導に重点をおく。	

高齢者保健福祉研究演習Ⅰ	2 単位
古谷野 亘	
高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、修士論文を作成しようとする学生に対して、個別的な指導と並行して、中間発表と討論、相互批判の機会を提供する。	

児童学研究演習Ⅰ	2 単位
田澤 薫	
「児童学研究」で学んだ基礎知識と方法論をもとにして、児童に関わる福祉の学問的特性を認識し、困難に出会った子どもの幸せな育ちへの問題関心を研究として具体化する方法を学ぶ。	

発達心理学研究演習Ⅰ	2 単位
池 弘子	
子どもの発達や障害、子育て支援などに関するテーマで修士論文を書く1年生を対象にした研究指導であり、教員による個別指導と演習参加者の集団における発表・質疑応答・討論を組み合わせで行う。	

児童福祉研究演習Ⅰ	2 単位
中谷 茂一	
児童福祉に関連する自らの研究テーマに沿ってレポートを発表し、ディスカッションをとおして深めていく。問題意識の整理からスタートして、論文構成本作成、資料収集、先行研究のレビュー、調査、論述、考察と段階を踏んで進行していけるよう指導する。先行研究の知見の把握・理解を深め、科学的な思考、検証方法を習得し、論文作成につなげる主体的な研究方法を身につけることを目標とする。	

児童教育学研究演習Ⅰ	2 単位
永井 理恵子	
児童の教育に関する修士論文を作成する学生に開講する。各自が行う研究テーマに応じた論文指導を行う。この演習での研究手法は歴史・哲学的手法を基礎とし、加えて実践的研究も行う。	

臨床死生学・グリーフケア研究演習Ⅰ	2 単位
平山 正実	
本演習では、修士論文を作成する学生を対象に、研究指導と必要に応じたスーパービジョンを行う。演習参加者は、自分の定めるテーマについて、定められた日に中間発表を行う。各自レジュメを作成し、演習に参加しなければならない。	

スピリチュアルケア研究演習Ⅰ	2 単位
窪寺 俊之	
スピリチュアルケアをテーマにした修士論文の指導。論文作成上の全般的指導と各論文執筆者のテーマにあわせて、適宜指導する。	

キリスト教カウンセリング研究演習Ⅰ	2 単位
藤掛 明	
研究テーマはキリスト教界あるいはキリスト教信仰者を対象としたもので、心理的問題を臨床心理学的手法により解明することを目指す。主に数量的リサーチおよび事例研究を想定している。	

教員紹介

①担当科目 ②本大学院での職名 ③現職(前職など) ④学位 ⑤主な著書

郡司 篤晃 / グンジ アツアキ

- ①医療・福祉政策特論Ⅰ・Ⅱ / 医療・福祉政策論研究演習
- ②教授、人間福祉学研究科長
- ③(東京大学医学部教授)
- ④博士(社会医学)
- ⑤「医療システム研究ノート」(丸善プラネット)「バス法：その原理と導入・評価」(編著、へるす出版)「医療費の地域差の研究」(編著、東洋経済新報社)「医療と福祉における市場の役割と限界」(編著、聖学院大学出版会) Julian Le Grand 「公共政策と人間：社会保障の準市場改革」(監訳、聖学院大学出版会)

池 弘子 / イケ ヒロコ

- ①発達心理学研究演習 / 発達心理学研究
- ②教授
- ③聖学院大学人間福祉学部教授
- ④教育学博士
- ⑤「子どもの福祉：特別な支援を必要とする子どもたち」(共著、ぎょうせい)「子どもの言語とコミュニケーション：発達と評価」(子どもの言語とコミュニケーションの指導」(共訳、東信堂)

牛津 信忠 / ウシツ ノブタダ

- ①社会福祉学研究 / 社会福祉学研究演習
- ②教授
- ③聖学院大学人間福祉学部長
- ④博士(学術)
- ⑤「社会福祉原論」(編著)「地域福祉論」(編著)「社会福祉の理論と実際」(共著)「長崎県の福祉の歩み」(編著)「21世紀の社会福祉」(編著)「介護の世界」(共著)「ケアリングワールド」(監訳)「社会福祉三つのモデル」(共訳)「社会福祉における相互的人格主義」ⅠⅡ(単著)「社会福祉用語辞典」(監修、分担執筆)

窪寺 俊之 / クボテラ トシユキ

- ①スピリチュアルケア特論Ⅰ・Ⅱ / スピリチュアルケア研究演習 / 日本文化学特殊研究
- ②教授
- ③(関西学院大学神学部教授)
- ④博士(人間科学)
- ⑤「スピリチュアルケア入門」「スピリチュアルケア学序説」「スピリチュアルケア学概論」「緩和医療学」(共)「スピリチュアルケアを語る」(共)「続スピリチュアルケアを語る」(共通)「魂への配慮」(共)

古谷野 亘 / コヤノ ワタル

- ①研究法入門 / 調査研究法Ⅰ(量的研究) / 高齢者保健福祉研究演習 / 高齢者保健福祉特論
- ②教授
- ③聖学院大学人間福祉学部教授
- ④保健学博士
- ⑤「新社会老年学：シニアライフのゆくえ」(共編著)「老年学入門：学際的アプローチ」(共編著)「実証研究の手引き：調査と実験のすすめ方・まとめ方」(共著)「数学が苦手な人のための多変量解析ガイド：調査データのまとめかた」

助川 征雄 / スケガワ ユキオ

- ①ソーシャルワーク研究 / ソーシャルワーク研究演習 / 精神保健福祉研究演習
- ②教授
- ③聖学院大学人間福祉学部教授
- ⑤「新精神医学ソーシャルワーク」「ケアマネジメントと地域生活支援」「ふたりぼっち」「ストレングスマodel」(共訳)

田澤 薫 / タザワ カオル

- ①児童学研究 / 児童学研究演習
- ②教授
- ③聖学院大学人間福祉学部教授 (尚絅学院大学女子短期大学部准教授)
- ④博士(人文科学)
- ⑤「留岡幸助と感化教育 思想と実践」(勁草書房)「仙台基督教教育院史からよむ 育児院と学校」(東北大学出版会)

永井 理恵子 / ナガイ リエコ

- ①児童教育学研究演習 / 児童教育学特論
- ②教授
- ③聖学院大学人間福祉学部教授
- ④博士(教育学)
- ⑤「日本幼稚園建築史研究」(学文社)

中谷 茂一 / ナカタニ シゲカズ

- ①児童福祉特論 / 児童福祉研究演習
- ②教授
- ③聖学院大学人間福祉学部教授
- ⑤「子ども虐待」(共編)「子ども家庭福祉論」(共著)「子ども家庭福祉とソーシャルワーク実践」(共著)「保健医療福祉の社会学」(共著)「朝日現代用語 知恵蔵 2004 年版～2008 年版」(共著)

中村 肇男 / ナカムライワオ

- ①環境保健学特論 / 環境保健学研究演習
- ②教授
- ③(聖学院大学人間福祉学部教授)
- ④医学博士
- ⑤「医学大辞典」「看護大事典」(分担執筆、医学書院)「WHO環境保健委員会報告」(共訳、環境産業新聞社)「保育の安全と管理」(分担執筆、同文書院)「標準社会福祉用語辞典」(監修・分担執筆、秀和システム)

平山 正実 / ヒラヤマ マサミ

- ①精神保健学研究 / 臨床死生学概論 / 臨床死生学特論Ⅰ / 臨床死生学・グリーフケア研究演習 / グリーフケア特論 / 日本文化学特殊研究
- ②教授
- ④医学博士
- ⑤「はじまりの死生学」(春秋社)「人生の危機における人間像」(聖学院大学出版会)「心の病気の治療がわかる本」(法研)「見捨てられ体験者のケアと倫理」(勉誠出版)

藤掛 明 / フジカケ アキラ

- ①キリスト教カウンセリング事例研究 / キリスト教とカウンセリングⅠ / キリスト教カウンセリング研究演習
- ②准教授
- ③聖学院大学総合研究所准教授
- ⑤「描画テキスト描画療法入門」「乳幼児・児童の心理臨床」「いやしから救いへ」「ありのままの自分を生きる」「雨降りの心理学」

松本 祐子 / マツモト ユウコ

- ①児童表現法指導特論
- ②兼任教授
- ③聖学院大学人間福祉学部教授、児童文学作家
- ⑤「リューンノールの庭」「フェアリースノーの夢」「8分音符のプレリュード」

- ①担当科目
- ②本大学院での職名
- ③現職(前職など)
- ④学位
- ⑤主な著書

村山 順吉 / ムラヤマ ジュンキチ

- ①児童表現法指導特論
- ②兼任教授
- ③聖学院大学人間福祉学部教授、ピアニスト
- ⑤「幼児と音楽教育」

相川 章子 / アイカワ アヤコ

- ①精神保健福祉特論
- ②兼任准教授
- ③聖学院大学人間福祉学部准教授
- ④人間学博士
- ⑤「かかわりの途上で」(著者へるす出版)、「医療と福祉のインテグレーション」(著者へるす出版) 他

石川 由美子 / イシカワ ユミコ

- ①児童・青年期心理病理特論
- ②兼任准教授
- ③聖学院大学人間福祉学部准教授
- ④修士(教育学)
- ⑤「障害科学の展開 第5巻 障害理解のための心理学」(明石書店)「臨床発達心理学の実践研究ハンドブック」(金子書房)

小池 茂子 / コイケ シゲコ

- ①児童文化特論
- ②兼任准教授
- ③聖学院大学人間福祉学部准教授
- ④文学修士
- ⑤「モラル教育の再構築を目指して」(共著、教文館)「キリスト教系中学校・高等学校生徒の道徳意識に関する研究」(共著、青山学院大学総合研究所)「生涯学習を取り巻く社会環境」(共著、学文社)「生涯学習概論 ハンドブック」(共著、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)

野口 祐子 / ノグチ ユウコ

- ①福祉工学特論
- ②兼任准教授
- ③聖学院大学人間福祉学部准教授
- ④工学博士
- ⑤「日本建築学会編建築設計資料集成－居住－」「標準社会福祉用語事典」(共著)

長谷川 恵美子 / ハセガワ エミコ

- ①臨床心理学特論
- ②兼任准教授
- ③聖学院大学人間福祉学部准教授(東京大学大学院教育学研究科 助手)
- ④教育学修士
- ⑤「心理療法ハンドブック」(共著、創元社)「心理査定実践ハンドブック」(共著、創元社)「こころに気づく」(共著、日本評論社)「リハビリ診療トラブルシューティング」(中外医学社)「循環器臨床サビア4 心臓リハビリテーション実践マニュアル 評価・処方・患者指導」(中山書店)

山田 麻有美 / ヤマダ マユミ

- ①児童・青年期心理病理特論
- ②兼任准教授
- ③聖学院大学人間福祉学部准教授
- ④教育学修士
- ⑤「サイコドラマ」(訳、りん書房)

寺崎 恵子 / テラサキ ケイコ

- ①児童文化特論
- ②兼任助教
- ③聖学院大学人間福祉学部助教
- ④教育学修士

佐藤 千瀬 / サトウ チセ

- ①異文化間教育特論
- ②兼任講師
- ③聖学院大学人間福祉学部講師
- ④博士(教育学)
- ⑤「幼児の外国人幼児への差異の気付きと前偏見の形成過程－前偏見の低減に向けて－」(博士論文)「『外国人』の生成と位置付けのプロセス－A幼稚園での参与観察を事例として」(異文化間教育学会)

山崎 浩司 / ヤマザキ ヒロシ

- ①調査研究法Ⅱ(質的研究)
- ②講師
- ③東京大学大学院人文社会系研究科特任講師
- ④博士(人間・環境学)
- ⑤「ケア従事者のための死生学」(共著)「よくわかる医療社会学」(共著)「生と死のケアを考える」(共著)